

平塚の石仏めぐり

25、土屋（惣領分）編



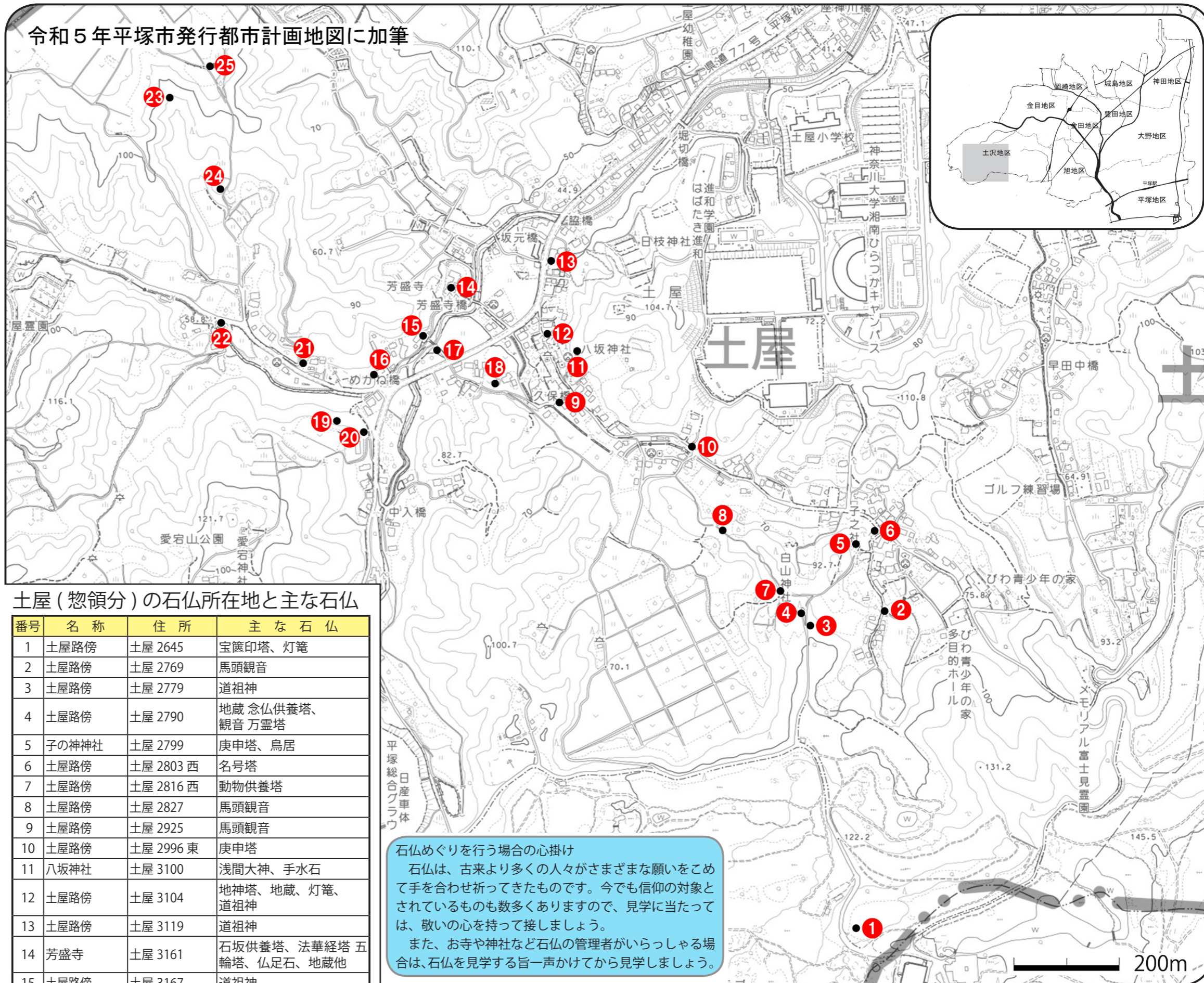
駒ヶ滝 俱利伽羅竜像

土屋（惣領分）の石仏

土屋は平塚市最西部の丘陵地帯に位置します。南金目との境に金目川が流れ、支流の座禅川とその支流の三笠川が土屋の中を流れています。『新編相模國風土記稿』によると、土屋村は惣領分、庶子分、寺分に区分されていましたが、現在は、惣領分自治会、上惣領自治会、大庶子分自治会、大寺分自治会の4自治会で運営されています。また、惣領分には上谷、脇、八坂下、琵琶の各集落があります。上谷には芳盛寺があり、また、八坂下には八坂神社があります。

惣領分には59基の石造物があります。芳盛寺、八坂神社境内の他、地区全体の路傍にあり、20種以上の多岐にわたっています。路傍にある石造物で多いのが、馬頭観音10基、次いで道祖神7基であり、その他に不動明王、供養塔、地藏、富士講石碑、水神等が祀られています。地域別では上谷（35基）、琵琶（14基）に多く見られます。惣領分で最も古いのは、八坂下（琵琶入口付近）にある地藏立像（承応2年（1653））で子育て地藏と言われています。安山岩で保存状態が良く素晴らしい石仏です。他に古いものとしては琵琶路傍の地藏念仏供養塔（1728）、同所観音万霊塔（1760）、芳盛寺の如意輪観音半跏像（1779）等があります。また、最も多く見られる馬頭観音は、この地域の生活に無くてはならなかった馬への感謝、供養の気持ちが込められています。次に多く見られる道祖神は、各集落に祀られています。

令和5年平塚市発行都市計画地図に加筆



土屋（惣領分）の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	土屋路傍	土屋 2645	宝篋印塔、灯籠
2	土屋路傍	土屋 2769	馬頭観音
3	土屋路傍	土屋 2779	道祖神
4	土屋路傍	土屋 2790	地藏念仏供養塔、観音万霊塔
5	子の神社	土屋 2799	庚申塔、鳥居
6	土屋路傍	土屋 2803 西	名号塔
7	土屋路傍	土屋 2816 西	動物供養塔
8	土屋路傍	土屋 2827	馬頭観音
9	土屋路傍	土屋 2925	馬頭観音
10	土屋路傍	土屋 2996 東	庚申塔
11	八坂神社	土屋 3100	浅間大神、手水石
12	土屋路傍	土屋 3104	地神塔、地藏、灯籠、道祖神
13	土屋路傍	土屋 3119	道祖神
14	芳盛寺	土屋 3161	石坂供養塔、法華経塔 五輪塔、仏足石、地藏他
15	土屋路傍	土屋 3167	道祖神
16	土屋路傍	土屋 3180	馬頭観音
17	稻荷社	土屋 3184 南	稻荷、鳥居
18	土屋路傍	土屋 3204	馬頭観音、地神塔
19	土屋路傍	土屋 4021	道祖神
20	土屋路傍	土屋 4022	石祠、浅間大神、動物供養塔、馬頭観音
21	土屋路傍	土屋 4054	観音
22	土屋路傍	土屋 4073	水神
23	駒ヶ滝	土屋 4086	不動明王、俱利伽羅不動
24	土屋路傍	土屋 4105	不明
25	土屋路傍	土屋 4124	供養塔

石仏めぐりを行う場合の心掛け
 石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。
 また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

番号	名称	住所	主な石仏
22	土屋路傍	土屋 4073	水神
23	駒ヶ滝	土屋 4086	不動明王、俱利伽羅不動
24	土屋路傍	土屋 4105	不明
25	土屋路傍	土屋 4124	供養塔

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和3年集計時点のものです。

平塚の石仏めぐり（25.土屋（惣領分）編）
 発行日：令和7年1月
 編集：石仏を調べる会
 発行：平塚市博物館
 住所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
 電話：0463-33-5111

石仏豆知識 20. 宝篋印塔

「宝篋印陀羅尼經」を納めた塔で、「この塔に一番一華を供え礼拝供養すれば八十億劫生死重罪が一時に消滅し、生きている間に災害から免れ、死後は必ず極楽に生まれる…」と功德が説かれています。

宝篋印塔は全体に四角形をなし、下から基壇、基礎、塔身、笠、相輪と積み上げ、笠の隅に飾りの突起があるものをいいます。塔身が本尊を意味し、初期のものは四面無地の場合が多く、その後は層塔と同じように金剛界四仏の種子を刻みますが、まれに胎蔵界四仏種子や陽刻の仏像を刻むもの、宝篋印陀羅尼の35字を刻むものもあります。

石造の宝篋印塔の初出がいつかははっきりしません。しかし、京都市右京区梅ヶ畑尾高山寺の明恵上人廟前前にある塔に、紀年銘はありませんが、資料には暦仁2年(1239)とされています。のちには納経塔としてだけでなく供養塔、墓碑塔として建てられています。

平塚市内には宝篋印塔が57基ありますが、多くは供養塔として江戸期に建てられ、最古の塔は大島宗真寺の応永6年(1399)で、次いで同じく宗真寺の応永10年(1403)の塔です。

土屋惣領分には市内屈指の宝篋印塔があります。それはレイクウッドゴルフ場の職員駐車場の近くにある杜鵑山という小高い丘にあり、上人塚の跡です。木立の中忘れ去られたように高さ3.5mの塔が佇んでおり、安永7年(1778)の建立で石工として有名な信州高遠の石工の手によるものです。

惣領分の道祖神 (1) (地図番号③⑫⑬⑮)

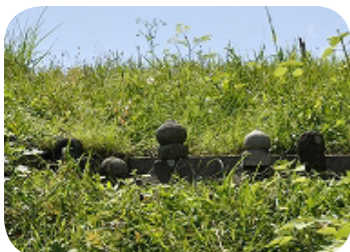
惣領分には上谷、脇、八坂下、琵琶の集落があり、7基の道祖神が祀られています。文字塔が4基、五輪塔群が3基となっています(双体・単体道祖神はありません)。各集落の道祖神をご紹介します。

③琵琶の道祖神 子の神社からゴルフ場へ向かう細い道を100mほど行くと土手の上に五輪塔道祖神があります(空風輪2、火輪6、水輪1、丸石1、その他2で構成)。琵琶の集落を見渡し佇んでいます。

⑫八坂下の道祖神 琵琶入口バス停から細い道を、びわ青少年の家に向かって100mほどの路傍にあります。五輪塔残欠(空風輪4、火輪4、水輪2、地輪1)、宝篋印塔笠部1・基礎部1、石棒片1で構成されています。

⑬脇の道祖神 県道77号線に面して祀られています。しっかりとした根府川石(自然石)の碑正面に「道祖神」、裏面に「昭和五十九年三月吉日 脇組」(1984)と彫られています。

⑮上谷の道祖神 芳盛寺の下の祠の中に納められています。塔正面に「道祖神」、右面に「明治三十五年」(1902)と彫ら



③琵琶の道祖神(年代不詳)



⑫八坂下の道祖神(年代不詳)

惣領分の道祖神 (2) (地図番号③⑫⑬⑮)

れています。

その手前に先代と思われる道祖神が、下部が欠けた状態で置かれており、正面に「道祖」、右面に「弘化」(1844~1848)の文字があります。



⑬脇の道祖神(昭和59年)



⑮上谷の道祖神(明治35年)

土屋 2790 路傍の石仏 (地図番号④)

琵琶公民館から南西方向にある尾根筋の山道にコンクリートブロック塀で囲まれた観音と地蔵が祀られています。

観音は、宝暦10年(1760)に作られた高さ104cmの万霊塔で、台石正面に「南無三界万霊」と彫られています。

地蔵は、享保13年(1728)に念仏講中が建てた高さが87cmの念仏供養塔で、台石正面には梵字で【𑖀𑖃𑖄𑖅】、「念仏講中 …」と彫られています。



左 観音万霊塔(宝暦10年)
右 地蔵念仏供養塔(享保13年)

惣領分の動物供養塔、馬頭観音 (地図番号⑦⑧)

子の神社から杜鵑山に向かう坂道を進むと三叉路に出ます。ここに「供養塚」があります。設置された解説板によると、明治以前から琵琶地区の農家で飼っていた豚、牛、馬、犬や猫などの「お墓」として供養されてきた場所です。

これに関連した動物供養塔が、北西方向に数m下った竹藪の中に祀られています。先端が尖った自然石に「多摩川号一世 昭和六年六月三十日卒」(1931)と刻まれた馬に関係した供養塔⑦です。

更に雑木林を北方向に下ると、右側の大樹の基に馬頭観音(年代不詳)⑧が祀られています。

馬頭観音は市内の石造物では4番目に多く170基あります。土沢地区には圧倒的に多く52基あり、惣領分には10基祀られています。当地区では、荷物の運搬の他、堆肥を得るために馬は欠かせないものでした。

馬が死んだ時に馬頭観音を建てていることから、馬を大切に愛しんでいたことがうかがえます。



⑦動物供養塔(昭和6年)



⑧馬頭観音(年代不詳)

八坂神社の浅間大神 (地図番号⑪)

八坂神社は惣領分の鎮守でお天王さんとも言われ、創立当初は天王社でしたが明治3年(1870)に八坂神社と改称しました。

境内左手には、自然石に「浅間大神」と彫られた総高214cmの大きな富士講碑が建っています。

明治23年(1890)に、この地区の講中18名が先達2名、教導職1名とともに富士登山を果たしたことを記念し、その名を記して建立したものです。



浅間大神(明治23年)

土屋八坂下路傍の石仏 (地図番号⑫)

県道77号線から琵琶に通じる道路の山裾に、地蔵と石祠、そして最近移転された道祖神が祀られています。

地蔵 右手に短い錫杖、左手に宝珠を持つ端正なお顔の地蔵で、像容の両側に禅定門、禅定尼の戒名と命日が彫られていることから、ご夫妻の墓塔であったものと思われます。

慶安2年(1649)、承応2年(1653)と記されており、市内では根坂間宝珠院境内にある寛永6年(1629)の地蔵に次いで2番目に古い地蔵です。

いつのころからか地元の人々からは子育て地蔵として祀られており、子供のいる家では1月と8月の地蔵縁日にご飯などを供えてお参りしました。

石祠 石祠内の石板に、馬頭観音の種字【𑖀𑖃𑖄𑖅】、「堅牢地神」と刻まれており、祠両壁面の銘文から、惣領下分の講中が弘化2年(1845)秋彼岸の社日(彼岸に近い戌の日)に建てた地神塔だとわかります。

地神塔は市内に16基ありますが、「堅牢地神」を刻む地神塔は4基で、江戸時代後期から大正時代にかけて建てられています。



地蔵(承応2年)



地神塔(弘化2年)

芳盛寺の石仏 (1) (地図番号⑭)

真言宗のお寺で、土屋の領主であった土屋三郎宗遠の菩提寺として阿彌陀寺の名で創建され、その後、大森芳盛の菩提寺となり芳盛寺と改称されました。寺前を流れる座禅川の由来は、修行僧が川のほとりで座禅をしたことによります。

妙経塔 角柱の塔正面上部に、五輪塔が浮彫され、その上に梵字で【𑖀𑖃𑖄𑖅】と刻まれており、その下に「妙経塔」と書かれています。右面には、菩薩を賛美する法華経の一文が刻ま



妙経塔(文政3年)

芳盛寺の石仏 (2) (地図番号⑭)

れています。裏面には、文政3年(1830)に左学頭の法印契實が写経したとあり、当寺が学問所だったことを伺わせま

す。経典を書写することが功德を得る修業のひとつです。仏足石 衝立型に模様が入った足裏の形を刻んだものです。釈迦の入滅直後、インドでは仏像が作られず、釈迦の足跡などを礼拝の対象としました。

日本で最古の仏足石は、奈良の薬師寺にある天平勝宝5年(753)のもので国宝です。芳盛寺の仏足石は平成2年(1994)に造立され、裏面に梵字で釈迦如来の真言が刻まれています。

如意輪観音 境内に丸彫の地蔵坐像と並んで、右手を頬に当てた如意輪観音があります。

如意輪観音は、十九夜や二十二夜の月待講の主尊として女人講中が建立することが多い像容です。

この塔は安政8年(1779)の建立で、台石に「観音講中」とあり、寄進者と思われる名は男性7名、女性2名が記されています。銘文に「天下泰平 五穀成就 領主安全 武運長久」とあることから集落としての係わりがうかがえます。

六地蔵 高さ1.9m、幅3.7mの巨石を彫窪め円頭光背の六地蔵が並んでいます。

六地蔵は、地蔵が六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人、天)を巡って衆生を苦しみから救う、という日本独特の信仰です。六地蔵は持物や印相が出典により異なります。

この六地蔵は左手にすべて宝珠を持ち、右手は錫杖など異なった持物です。

裏面に梵字で地蔵菩薩の真言と、建立の趣旨が記され昭和61年(1986)に建てられたものです。



六地蔵(昭和61年)

土屋 4073 路傍の水神 (地図番号⑳)

県道から土屋霊園に向かう道路が、霊園方面からの座禅川の支流と接する付近に、かつてこの水流を利用した水車小屋がありました。

水車小屋はなくなりましたが、水神は現在でも祀られています。

水神は高さ48cmの凝灰岩で作られた石祠で、右の壁面には「水神 明治二十六年 七月吉日」(1873)、左壁面には「水車中」と彫られています。



水神(明治26年)